

インドネシアで有機農業

コメ栽培へ交流協定

新庄村とAMDA支部

新庄村と国際医療ボランティア・AMDA

インドネシア支部は9日、有機農業を主体に交流を進める連携協定を結んだ。

新庄村がインドネシア人研修員を受け入れ、AMDA、岡山商科大と連携して取り組む有機農業法によるコメの栽培技術を学ぶほか、2014年からはスラウエシ島での本格栽培を目指す。

AMDA本部（岡山市北区伊福町）で調印式があり、笹野寛村長とアンディ・フスニータンラ支部長が協定書に署名。笹野村長は「小さな村の新たな「生き方」の可能性を開いてくれるだろう」と期待し、タンラ支部長は「コメ抜きにインドネシアの生活は成り立たない。品質の良いコメ作りを広めたい」と話した。

協定は新庄村が11年



に施行した海外研修員との交流を盛り込んだ「アジア有機農業プラットフォームフォーラム（連携活動）推進条例」の具現化が目的。13年に農業従事者の男性が来日予定で、翌年にはインドネシアでコシヒカリなどの栽培を計画している。（伊丹友香）